

**2016.11.5sat
11.6sun**

2016 富士チャンピオンレースシリーズ 第6戦 レポート

AE111/N1400/N1500

Round 4



好天に恵まれた今シーズン最終戦。最初のレースはこのカテゴリーが行なわれた。シリーズチャンピオンもまだ決まっていないので激しい展開が予想される。朝の予選でポールポジションを決めたのはAE111 98 MAS91K/F・IDIトレノ 三浦勝の2'02.195。隣にはシリーズポイントリーダーの91 MAS・IDI・DL・レビン 船木周一が並ぶ。N1400はランキング2番手の21 スノコμDLマリンAID82 大竹直が2'09.819がクラストップからのスタート。決勝ではスタート直後から激しいトップ争いが続くが中盤から98三浦が徐々に逃げる体制に。その後ろで2位、3位争いの隙に徐々に引き離しポールトゥウィン。N1400は最後まで21大竹と0 戸敷電設ミッドランドED82 戸敷直人の激しい争いが続き0.1秒差で21大竹が先にチェッカーを受けた。レース後98三浦は「一ヶ月前に車が壊れたのですが何とか間に合いました。3レースポールトゥウィンなのにチャンピオンが取れなかったのは悔しいです」と話し、21 大竹は「今日は前だけを見て頑張って走りました」と話していた。



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	98 三浦 勝
2	91 船木 周一
3	78 大沢 雄哉
4	18 塩岡 雅敏
5	32 松川 智泰
6	12 ウズラ



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	0 戸敷 直人
3	26 斉藤 和実
4	31 内田 恒雄
5	72 高橋 ノボル
6	5 水野 明彦

SUPER FJ

Round 5



第5戦となるS-FJも今回で今年の最終戦。残すは12月に行なわれる各地のS-FJ上位で争われる日本一決定戦という時期となった。前回の第4戦までで優勝3回、2位1回の成績を残した2 ガレージ茶畑10V ED 上村昌史がチャンピオンを決めており、今回もポールからのスタート。2番グリッドにはGIA玉三郎10VED 草野貴哉が並び、続く3番手には、ランキング2位の22 150WNユニオパール10V 赤堀憲臣が付けている。決勝では、好スタートを決めた22赤堀がオープニングラップを制しトップで戻ってくるが、2 上村もチャンピオンの意地をかけてトップを奪い返す、その後もコンマ差の争いを最後まで続けて12週の決勝レースは、コントロールラインを2台のマシンが横並びで通り、0.054秒差で2上村が優勝した。2位は22赤堀、3位には予選4番手から追いつけた51 WRSインスケイブスKK-S RAIDENが入った。レース後2上村は「今回ストレートスピードが伸びずにマシンが不利なのはわかっていたので、その分インフィールドで何とか頑張って勝つことができとても嬉しいです」と話している。



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	2 上村 昌史
2	22 赤堀 憲臣
3	51 RAIDEN
4	7 佐藤セルゲイビッチ
5	36 草野 貴哉
6	14 飯嶋 郁陽

N1000/DEMIO RACE
ROADSTER CUP NC・ND
AUDI A1
Round 4



7クラスが混走となるこのカテゴリーだが、ここまででチャンピオンが決まっているのはデミオとRSC NC-OPENクラスで、それ以外のクラスはこの最終戦で決定する。予選でトップだったのはNC-OPENチャンピオンの8 ド☆ライダーロードスターアクレ 菊池聡 2'07.744のタイム。新型ロードスターはND-OPENの9 VaryアクレND5 茂木文明が2'11.052で総合5番手からのスタート。デミオトップは34 TR-Factryデミオ 常盤岳史の2'18.925、N1000ではポイントリーダーの393 初音Rもちょヴィッツ 前田貴行が2'19.059、Audiは101 岩城滉一の2'14.962で各クラストップグリッドからのスタートとなった。決勝では前半こそ8 菊池と2番手スタートの1 高橋のトップ争いがつづくものの中盤からは2秒差ほどの間で8 菊池が逃げ切った。最後までバトルが続いたのはND-chall 21新井と3寺下は、0.2秒差で先に21新井がチェッカーを受けた。NC-Open8 菊池「暑かった!全勝できてほっとしました」JNC-chall 22 中桐孝治「予選は良かったのですが決勝では一度前に出られてしまいましたけど落ち着いて抜きかえることが出来た」ND-chall 21新井「疲れました、あと1周あったらどうなっていたか・・・」デミオ34 常盤「久しぶりに勝てたのは嬉しいけど西山さんとのバトルしたかった」N1000 393前田「1周目の混戦で抜け出せました」Audi 20 荻野哲生「グリッドでエンジnstoolの時には終わった!と思いましたけどバトルも楽しかった!」と話していた。



RESULT リザルト N1000

RankNo.	Name
1	393 前田 貴行
2	54 垣生 彬
3	2 あおき みのる
4	27 山崎 じん
5	49 菅野 良男
6	24 佐藤 和洋



RESULT リザルト DEMIO RACE

RankNo.	Name
1	34 常盤 岳史
2	6 辻田 慈



RESULT リザルト ROADSTER CUP NCC

RankNo.	Name
1	22 中桐 孝治
2	80 IINUMA
3	87 山本 絵里子
4	70 ガルムドウェルリカートジュニア



RESULT リザルト ROADSTER CUP NCO

RankNo.	Name
1	8 菊池 聡
2	1 高橋 裕史
3	16 横山 護
4	25 橋川 学



RESULT リザルト ROADSTER CUP NDC

RankNo.	Name
1	21 新井 敏克
2	3 寺下 皓大
3	90 岡原 達也
4	31 原嶋 昭弘



RESULT リザルト Audi A1

RankNo.	Name
1	20 荻野 哲生
2	101 岩城 滉一
3	19 小川 巧祐

ROADSTER N1 ROADSTER CUP NA6・NA8・NB8 Round 4

Audi



RESULT リザルト ROADSTER N1

Rank No.	Name
1	1 大野 俊哉
2	81 安達 陽平
3	2 雨宮 恵司
4	48 芝田 敦史
5	43 大井 正信
6	14 毛塚 宏幸



RESULT リザルト ROADSTER CUP NA6

Rank No.	Name
1	23 山川 穰
2	76 辻本 均
3	27 野木 強
4	10 榎園 弘
5	73 高橋 功典
6	18 深沢 智



RESULT リザルト ROADSTER CUP NA8

Rank No.	Name
1	0 小原 健一
2	88 山田 健介
3	39 須藤 裕輝
4	6 崇島 精一郎



RESULT リザルト ROADSTER CUP NB8

Rank No.	Name
1	11 戸田 裕一
2	21 山平 健太郎
3	91 神谷 誠
4	75 澤田 薫
5	77 鈴木 勇太
6	33 羽入 大輔

86&BRZ/8BEAT Round 4



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	57 川村 克透
2	3 渡辺 ひろし
3	53 平良 浩幸
4	47 落合 立成
5	7 三好 広幸
6	54 野田 宗男



RESULT リザルト 8Beat JP-2R

Rank No.	Name
1	55 たしろ じゅん
2	99 松井 有紀夫



RESULT リザルト 8Beat JP-2S

Rank No.	Name
1	07 伊藤 毅
2	211 田中 雅之
3	08 AKKY
4	49 清 充秀
5	77 広瀬 安浩



RESULT リザルト 8Beat JP-3S

Rank No.	Name
1	1 木幡 修一郎
2	13 市川 忠康
3	2 荒木 丈晴
4	88 佐藤 真子

4クラス混走のこのカテゴリー、日曜朝の予選で総合トップでポールポジションの座を射止めたのはRSC NB8 1 JoyアクレMotys☆NB8 戸田裕一の2'06.872。NA8は総合でも4番手の0佐藤裕也眼科モティーズNA8 小原健一がトップ、NA6は23 JoyアクレMotys☆NA6 山川穰 N1は2 コーンズロードスター 雨宮恵司で各クラストップからのスタートとなった。9週の決勝ではトップを守ろうとする11戸田に21 ファニーSオリーブNB8制動屋 山平健太郎が迫る展開。レース後半になってその差も徐々に近づいものの、0.4秒差で11戸田が逃げ切り優勝した。11戸田は「途中でパワステにトラブルが出てしまいましたがなんとか勝つことが出来ました」と話し、NA8優勝の0小原は「ようやく遠征してこられました。楽しかった！」NA6 山川は「スタートが決まってその後は他のクラスともバトルが出来たし楽しかったです」N1優勝の1 大野は「雨宮さんがエンジンを新しくしたので苦戦になるかなと思ったのですが、何とか勝つことができました」と話していた。

こちらも今回が最終戦となった86&BRZ/8Beat第4戦。日曜日午前中の予選でコースレコードを更新してトップタイムだったのは8Beat JP-2R 55 AUTOFACTORY86 たしろじゅん 2'00.017。86&BRZでは57 86Racers川村号 川村克透が2'03.403のトップタイムで総合3番手からのスタートポジションを決めた。チャンピオンの可能性がある47 アバンテSLY-86 落合立成はクラス3、総合8番手、53 86Racers 平良号 平良浩幸はクラス9、総合では20番手からとなり、かなり激戦の決勝となる予感。決勝では8 Beatはトップの55たしろが他を寄せ付けずに徐々に差を伸ばし独走状態でそのままチェッカー、総合優勝を決めた。しかしその後ろではクラス入り乱れての激しいバトルが各所で繰り広げられた。JP-2Sクラスでは07サンオアシス86 伊藤毅と211 田中建設工業86 田中雅之とのトップ争い、86/BRZでは53平良が怒涛の追い上げで順位を上げてくる。そして最後の最終コーナーで3位表彰台の座を獲得し、シリーズチャンピオンを手にした。優勝した57川村は「フライングだけ特に注意して臨みました。楽しいレースが出来ました」と話していた。